

(講座) 放射線生命科学 (研究室) 放射線生物学
(氏名) 鈴木啓司 (職名) 助教授

【研究テーマ】

1. 放射線発がんの分子メカニズムについての研究
2. 放射線細胞応答と情報伝達に関する研究

【論文発表】

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. M. Yamauchi, K. Suzuki, S. Kodama and M. Watanabe: Abnormal stability of wild-type p53 protein in a human lung carcinoma cell line, *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, **330**, 483-488 (2005).
2. G. Kashino, S. Kodama, K. Suzuki, T. Matsumoto and M. Watanabe: Exogenous expression of exonuclease domain-deleted WRN interferes with the repair of radiation-induced DNA damage, *J. Radiat. Res.*, **46**, 407-414 (2005).
3. T. Hamamoto, K. Suzuki, H. Sasaki, M. Ichikawa, S. Kodama and M. Watanabe: Differences in effects of oncogenes on sensitivity to anticancer drugs, *J. Radiat. Res.*, **46**, 197-203 (2005).

(A-b) 総説

1. K. Suzuki, S. Kodama and M. Watanabe: Delayed DNA damage and radiation-induced genomic instability, *Environ. Mutagen Res.*, **27**, 111-116 (2005).
2. K. Suzuki, S. Kodama and M. Watanabe: Bimolecular markers for in situ detection of DNA double strand breaks in cultured mammalian cells, *J. Oral Tissue Engin.*, **3**, 67-72 (2005).

【学会発表】

A 国際学会

(A-a) 招待講演, 特別講演, 受賞講演

1. K. Suzuki, M. Suzuki, M. Yamauchi, S. Kodama and M. Watanabe: X-ray-induced persistent chromatin damage and amplification of DNA damage checkpoint signals, The 1st Asian Congress of Radiation Research, November 16-17, Hiroshima (2005).
2. G. Kashino, K. Suzuki, K. M. Prise, G. Schettino, M. Folkard, B. Vojnovic, B. D. Michael, S. Kodama and M. Watanabe: Application of soft-X-ray microbeams in radiation biology. 21st Century COE program Nagasaki University/Hiroshima University Incorporated International Symposium. November 17, Hiroshima (2005).

B 国内学会

(B-a) 招待講演, 特別講演, 受賞講演

1. 鈴木啓司、山内基弘、児玉靖司、渡邊正己：低線量放射線による DNA 損傷チェックポイントシグナルの ATM 蛋白質リン酸化に依存した増幅、日本放射線影響学会第 48 回大会、11 月 15-17 日、広島 (2005) .
2. 山内基弘、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：放射線照射後に残存する DNA 損傷チェックポイント因子のフォーカスの生物学的意義、日本放射線影響学会第 48 回大会、11 月 15-17 日、広島 (2005) .
3. 丸尾敦志、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：放射線によって誘導される遺伝的不安定性の起源、日本放射線影響学会第 48 回大会、11 月 15-17 日、広島 (2005) .
4. 鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：局所 p53 遺伝子発現制御ベクターの構築とアポトーシス誘導、第 64 回日本癌学会学術総会、9 月 14-9 月 16 日、札幌 (2005) .
5. 鈴木正敏、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：細胞老化によるテロメア構造破綻がもたらす ATM-p53 経路の活性化、第 64 回日本癌学会学術総会、9 月 14-9 月 16 日、札幌 (2005) .

(B-b) 一般講演

1. 森本美生、鈴木啓司、渡邊正己：放射線被ばくした分裂期細胞におけるヒストン H2AX リン酸化の生理機能、日本放射線影響学会第 48 回大会、11 月 15-17 日、広島 (2005) .
2. 石井雅夫、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：Werner 症候群細胞における細胞周期依存的 DNA 損傷修復の解明、日本放射線影響学会第 48 回大会、11 月 15-17 日、広島 (2005) .
3. 有吉健太郎、鈴木啓司、後藤真、石崎寛治、渡邊正己、児玉靖司：ワーナー-症候群細胞におけるテロメア構造異常、日本放射線影響学会第 48 回大会、11 月 15-17 日、広島 (2005) .
4. 鈴木正敏、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：DNA 二重鎖切断再結合部位における p53 の持続的活性化の可能性、日本放射線影響学会第 48 回大会、11 月 15-17 日、広島 (2005) .
5. 三浦美和、松田尚樹、菓子野元郎、鈴木啓司：正常ヒト細胞における γ 線のバイスタンダー-効果、日本放射線影響学会第 48 回大会、11 月 15-17 日、広島 (2005) .
6. 原田忠幸、菓子野元郎、鈴木啓司、松田尚樹、渡邊正己：放射線照射正常ヒト二倍体細胞におけるバイスタンダー-効果の解析、日本放射線影響学会第 48 回大会、11 月 15-17 日、広島 (2005) .
7. 石井雅夫、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：Werner 症候群細胞における細胞周期依存的 DNA 損傷修復の解明、日本放射線影響学会第 48 回大会、11 月 15-17 日、広島 (2005) .
8. 山下美智子、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：放射線誘発ゲノム欠失を起点とした遅延性影響発現の解析、日本放射線影響学会第 48 回大会、11 月 15-17 日、広島 (2005) .
9. 山内基弘、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：放射線照射後のリン酸化 ATM 蛋白質フォーカス形成の G1 アレストにおける役割、第 64 回日本癌学会学術総会、9 月 14-9 月 16 日、札幌 (2005) .
10. 吉居華子、児玉靖司、鈴木啓司、渡邊正己：海洋微生物が有する高分子分解機能による癌治療の可能性、第 64 回日本癌学会学術総会、9 月 14-9 月 16 日、札幌 (2005) .
11. 森本美生、鈴木啓司、渡邊正己：放射線被ばく分裂期細胞で誘導されるヒストン H2AX

リン酸化の DNA 二重鎖切断修復過程における役割、第 64 回日本癌学会学術総会、9 月 14-9 月 16 日、札幌 (2005) .

- 丸尾敦志、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：放射線誘発遺伝的不安定性は大規模な染色体欠失領域に記憶される、第 64 回日本癌学会学術総会、9 月 14-9 月 16 日、札幌 (2005) .

【研究費取得状況】

- 鈴木啓司、文部科学省科学研究費基盤研究 (B) 「放射線誘発クロマチン損傷修復における MDC1/53BP1 センサー-シャペロンの機能」 (代表)。

【学会役員等】

- 日本放射線影響学会評議員
- Journal of Radiation Research 編集委員

【過去の研究業績総計】

原著論文 (欧文)	67 編	(邦文)	0 編
総説 (欧文)	4 編	(邦文)	6 編
著書 (欧文)	21 編	(邦文)	4 編
紀要 (欧文)	4 編	(邦文)	1 編
特許	1 件		